

育ちと学びをつなぐ

掛川市教育委員会

園小中接続便り①

令和5年7月27日

「第1回 幼児教育と小学校教育の円滑な接続に向けた研修会」開催

幼児教育と小学校教育の円滑な接続に向け、幼児教育施設の教職員と小学校の担当教員の合同研修会を令和5年6月16日に開催しました。小学校教員22名・園保育者31名が参加し、講話とグループワークを通して、幼児教育と小学校教育の円滑な接続の必要性を理解するとともに、アプローチカリキュラム・スタートカリキュラムの充実・活用を図ることを目的に実施しました。令和6年1月に第2回研修会を予定しています。

静岡県幼児教育サポートチーム 宮村典雄 様を講師としてお招きしました。



「幼児教育施設等と小学校との交流・連携」について、講話をしていただきました。架け橋期の充実の必要性やそのための方策や課題の説明、また、幼小の交流・連携について、他市の事例を取り上げながら具体的な方法を教えていただきました。交流・連携を通して、互いの教育を共有すること、全職員が役割を共有すること、幼児教育

教育の特質や接続期の重要性を社会と共有することの大切さを再認識することができました。

宮村先生の講話から ～どのような気付きや学びがありましたか？～

(参加者「研修アンケート」より抜粋)

- 幼児教育について学校側に理解してもらいたいという思いだけではなく、**園での姿がどう学校教育につながっているか**、小学校についても学び、理解していくことの大切さを学んだ。
- よりよい保育や子供の発達を改めて捉えるためにも、年長児担任・主任・園長だけでなく、**職員全員で**学校との連携を図る機会をどう作っていくか模索したい。
- 園と学校が**継続的な対話**をし、園と学校の生活を互いが知ること、小学校への生活の見通しをもち意識しながら子供に働きかけていくことの大切さを改めて感じた。
- 1年生のためだけのカリキュラムではなく、**学校全体に関わってくるカリキュラム**だとわかった。
- IOの姿やアプローチカリキュラム・スタートカリキュラムを**地域や保護者に発信**していくと子供の安心感につながると感じた。
- 園と学校の連携が行事等にとどまっていて、相互理解や情報共有の機会が少ないことが課題であると感じた。公開保育週間では、遊びをただ見るだけではなく、**遊びの中にどんな学びがあるか視点をもって参観**したいと思う。
- 今まで何回か1年担任をしてきたが、ここまで接続を意識したことはなかった。**園でどんな経験をし、どんな力をつけてきたのかを知る**ことで、ゼロスタートではなくなる。

「ジョイント活動」について語り合いました。

グループワークでは、冊子に掲載した「ジョイント活動」（園小接続のポイントとなる、園での経験が小学校の学びにつながる活動）をもとに、園での経験と小学校での授業内容とのつながりについて、具体的にイメージしながら保育者と教員が語り合いました。



グループワークから ～どのような気付きや学びがありましたか？～

- 小学校での様々な活動や学習にジョイント活動があることに気付いた。
- 保幼小連絡会や学園の研修会でも、子供の様子だけではなく、**ジョイント活動についての話し合いができる**と**接続を意識することができて**よい。
- 今回のように保育者と学校職員が**実際に言葉で伝え合う**ことで、書面だけではわからない取組の内容や、活動のつながりを知ることができ、大変参考になった。
- 情報を共有することが接続の第一歩**。引き続き様々な形で意見交換や交流ができるとよい。
- 園と小学校との**話し合いを継続**するために、時間の確保や内容の精査、リモート等での開催方法について検討したい。

かけがわ型架け橋カリキュラム開発会議にて、園訪問・小学校授業参観を実施

本年度は、文部科学省「幼保小の架け橋プログラムに関する調査研究事業」の研究2年目となります。研究指定園・校での実践を含めたカリキュラム開発を進めていくため、令和5年6月30日におおさかこども園訪問、7月4日に大坂小学校授業参観を行いました。その後の開発会議の協議では、園小接続に向けての気付きが主に3点挙げられました。

①「環境設定」

園・学校共通で、子供の興味関心、意欲づけのために大切である。

②「友達との関わり」

園では友達のまねをすることで関わっている。小学校では言葉のやりとりが少しずつ出て、友達と関わる。



③「幼児教育の体験の土台があってこそその小学校教育」

園では時間や場所等の枠が自由な中で繰り返し体験して遊ぶ。この経験があって小学校では枠の中で活動することができる。園での経験を想起させることが大切である。

令和4年度、「かけがわ型架け橋カリキュラム開発会議」において『かけがわ型架け橋カリキュラム作成に向けて～幼児教育を学校教育へつなぐ～』を作成しました。昨年度配付した「かけがわ型育ちと学びのジョイントブック」とともに、各学園での研究会や異校種参観時等に持ち寄り、積極的に御活用願います。

今後も、開発会議での協議内容を発信していきます。



育ちと学びをつなぐ

掛川市教育委員会

園小中接続便り②

令和5年11月2日

入学説明会に向けて

11月から2月にかけて、各校で令和6年度小学校入学予定者の入学説明会が行われます。「第1回幼児教育と小学校教育の円滑な接続に向けた研修会」にて、静岡県幼児教育サポートチーム 宮村典雄氏 から、接続期の重要性を保護者や地域と共有することについてのお話がありました。保護者に、幼児教育と小学校教育のつながりや取組を知っていただくことで、保護者は、入学後の学校生活への不安が解消され、安心して子供を学校に送り出すことができます。

そこで、入学説明会では、以下のような内容を紹介することができると思います。

◎幼児期の経験が学校教育につながっていること。

(参考)

- ・第1回幼児教育と小学校教育の円滑な接続に向けた研修会 宮村典雄氏 講話資料
- ・「かけがわ型 育ちと学びのジョイントブック」p4,5

◎「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を参考に、学園内の子供の育ちと学びについて語り合い、保育者と教員が幼児教育と学校教育について理解を深めていること。

◎生活科を中心とした合科的・関連的な指導の工夫をしていること。

◎弾力的な時間割の工夫をしていること。

(参考)

- ・「かけがわ型 育ちと学びのジョイントブック」p6
- ・『かけがわ型架け橋カリキュラム』作成に向けて～幼児教育を学校教育へつなぐ～ p12,13

そして、園小中の「連携」「接続」が進むと以下のような良さがあることもお話できるといいでしょう。

子供にとって良いこと

- ・幼児期に親しんだ活動を取り入れたり、分かりやすく学びに向かう環境づくりをしたりすることで、安心して学校生活をスタートできる。
- ・安心して生活することで、自分のもっている力を発揮することができる。
- ・活動や体験を通して、学びに向かう力を育むことができる。
- ・6年間(9年間)の学びの基礎をつくることができる。

かけがわ乳幼児教育未来学会 4市1町連携キャリアアップ研修より

今年度からかけがわ乳幼児教育未来学会にキャリアアップ研究部が設立され、研修会が5回開催されました。その内、9月19日に開催された第5回は「小学校との接続」と題し、静岡県立大学短期大学部教授 永倉みゆき氏が講話をしてくださいました。

永倉先生の講話から ～どのような学びがありましたか？～

(参加者「研修レポート」より抜粋)

- 「就学前までに～ができるように」と考えがちだったが、困らないためにではなく、**就学しても子供が楽しんで学習に向かえるような経験を園で積み**、心を育むことが大切だと強く感じた。
- 小学校との円滑な接続とは、小学校教育の先取りをすることではない。また、5歳児から一年生への接続だけではない。**それぞれの年齢にふさわしい保育を行うことで資質・能力が育ち**、乳児期からずっとつながっていないかならないことを改めて感じた。
- 幼児期の楽しかった学び(遊び)の経験が、学校での学びへの意欲につながっていく**と感じた。
- 教育は乳児期から始まっていて、その時期だけの教育ではなく、園から小学校・中学校と**将来を見据えた教育**をしていくことが必要。
- 「意欲に基づかない学習は学びにならない」「自発性・自由感の乏しい遊びは学びにならない」という話があった。**意欲をどう引き出すか、自発性・自由感をどう豊かにしていくか**。乳幼児期からの保育・教育の積み重ねが全てつながっていくのだと思った。
- 小学校への円滑な接続のために、保育者と教員が10の姿を共有し、**計画的な交流**をすることが重要だと感じた。
- 小学校への円滑な接続のためには、交流することを目的にするのではなく、**交流してどうだったのかを話し合うことが大切**だと知り、子供の交流だけではなく保育者と教員の交流の場を設け、子供の姿を共通理解する必要性を感じた。
- 小学校と連携する際には、**書類は互いが理解しやすい表現**で伝える工夫が必要だと感じた。

11月18日(土)は「かけがわ教育の日」

今年度の「かけがわ教育の日」の基調講演は、東京大学名誉教授 汐見稔幸氏 による「教えから学びへ～夢中で遊ぶように、自ら学ぶ子を育てるには～」です。長年に渡り、幼児教育に携わってきた汐見先生に、子供の学びの深め方から、今必要な教育の本質について語っていただきます。

掛川市が取り組んでいる、幼児期の育ちや学びを小学校教育につなげる「かけがわ型架け橋カリキュラム」作成の手がかりにもなることと思います。オンライン参加(配信)は、期間限定(当日夕方頃～2週間)で市HPから視聴可能です。ぜひ多くの方の視聴をお願いいたします。



育ちと学びをつなぐ

掛川市教育委員会
園小中接続便り③
令和6年1月18日

教育課程への位置付けをお願いします

各園・校においては、次年度に向けての話し合いが進んでいることと思います。各種研修会等で依頼していますように、園・小学校の教育課程に園小接続の取組を位置付け、園・学校としての取組となるようお願いいたします。来週1月23日「第2回幼児教育と学校教育の円滑な接続に向けた研修会」にて、各園小から持ち寄った物をもとに情報共有します。

「教えから学びへ ～夢中で遊ぶように、自ら学ぶ子を育てるには～」

11月18日の「かけがわ教育の日」では、東京大学名誉教授 汐見稔幸氏による基調講演が行われました。会場またはオンラインで視聴された方も多いかと思います。以下、幼児期の育ちや学びを学校教育につなげる手がかりとなる内容をまとめました。

東京大学名誉教授 汐見 稔幸氏 による基調講演より

令和5年11月18日「かけがわ教育の日」

◎非認知能力もしっかり育てる教育を

- ・非認知能力は乳幼児期から育つため、乳幼児期での非認知能力育てが大事。
- ・幼児期→児童期のパイプを太くしてうまくつなげること。

【非認知能力の育ち方、育て方】

子供が自分であれこれに興味関心をもち、自分たちであれこれ試行錯誤する中で徐々に育つ。遊びの充実が大事。

…昔は子供は日々の遊びや手伝いの中で頭・心・体を使い、非認知能力（工夫力、アイデア力、忍耐力、感情コントロール力等）を身に付けていた。

→あれこれ指示をしたり、教えたことをそのとおりにさせたりする教育では育たない。
子供は、自分たちで調べ、意見をもち、社会や人の役に立つことを願っている。

◎子供は「自育的な生き物＝自分で自分を育てていく動物」だとわかってきた

子供は、おもしろい！知りたい！等の知的好奇心や欲求が芽生えて、それを知るためやできるようにするため、自ら挑んで、徐々にそれを知り、できるようになっていく動物。

→興味・関心をもたせる、どれだけおもしろい環境をつくるかが大事。

◎経験を多様に重ねることで「学ぶ」

- ・人生に失敗はない。どうしたらよいかを学ぶ場である。
- ・1回目からうまくいくことよりも、何回も繰り返したらうまくいく経験をさせる。
- ・行動に移して初めて「わかった!」になる。

頭の中でわかる→解決方法がわかる→自分のやるべきことがわかる→行動する→「わかった!」

- ・経験によって学ぶことと、教えられて覚えて学ぶことは違う。

市内全園に絵本を配付



かけがわ型架け橋カリキュラム開発会議の協議にて、就学前の市内全園児の環境を整えるために、年長児が在園する市内全園に、小学校の生活科につながる絵本を配付しました。事務局が選書した、植物や生き物、しゃぼん玉や新聞紙等の身近なものを題材にした絵本から選択していただきました。今後も、遊びの中で、自然に絵本を手にする姿が増えることを願っています。



本年度2回目の園訪問・小学校授業参観を実施

かけがわ型架け橋カリキュラム開発会議にて、令和5年10月31日に掛川こども園、11月10日に桜木小学校の保育・授業参観を行いました。その後の開発会議の協議で、園小接続に向けて見えてきたことは以下のとおりです。

①「環境設定」

使いたい材料や道具等を自分で選び、すぐに活動できる環境があることで、主体的な遊び=学びになる。(※下写真参照)

②「友達との関わり」

- ・園では友達の姿を見て刺激を受ける。保育者は他の子にも興味をもたせ、遊びが広まる声掛けをすることが大切である。
- ・小学校ではグループで話し合う等友達と意思を共有する場を設定することが大切である。

③「幼児教育の体験の土台があってこそその小学校教育」

- ・園では夢中になって遊ぶことで得たものが学びとなる。遊びが継続するために保育者の支援が大切である。
- ・小学校では他者意識が高まる。「年長さんに〇〇したい。」というような思いが意欲となる。

④「子供理解」

園・学校共通で、一人一人の子供の思いに寄り添うことが大切である。子供の実態に応じた環境、活動(学習)内容を設定する。



園



小学校



中学校



東中学校の
美術室です!

育ちと学びをつなぐ

掛川市教育委員会
園小中接続便り④
令和6年2月7日

市内全園に鉛筆を配付



下記の研修会にて、年長児が在園する市内全園に、4Bの「こどもえんぴつ」を配付しました。昨今、家庭に鉛筆がない子供もいる中、園で鉛筆にふれ、鉛筆を持つ経験をすることで、書くことへの抵抗を減らし小学校への滑らかな接続を図ることが目的です。ひらがなの学習をするという小学校の前倒しをするためではありません。ぜひ、園での積極的な活用をお願いいたします。

「第2回 幼児教育と小学校教育の円滑な接続に向けた研修会」開催

令和6年1月23日に第2回合同研修会を開催し、小学校教員22名・園保育者30名が参加しました。

講話は、さがわ幼稚園の園務主任 門奈恵子先生と、主任 松本佳奈先生が「園小接続につながる保育実践及び学園の取組について」、和田岡小学校の1年生担任 佐藤仁美先生が「弾力的な時間割の工夫等園小接続に向けた学校教育の取組について」をお話してくださいました。

グループワークは、園小別グループと園小混合グループ（学区毎）の2種類行い、来年度に向けた活発な話し合いがなされました。

参加者の声を参考に、あなたの学園では、あなたの園・校では、どのような取組を取り入れていくことができそうか考えてみてください。



さがわ幼稚園 門奈先生・松本先生の講話から（参加者「研修アンケート」より抜粋）

- 学園内での合同研修の位置付けと、研修の意図や方向性が共有され、積み重ねられていることが円滑な接続につながっていると感じた。
- 保育・授業参観前に、互いの教育内容や参観の視点を共有することで理解が深まると感じた。
- 1年生の子供は、経験があることほど自信をもって取り組む姿が見られるため、園で経験したことを生かしつつ、目の前の子供に合ったスタートカリキュラムや年間計画を作成したい。
- 子供の「やってみたい」の意欲に寄り添いながら遊びや活動を展開しており、子供の満足感や達成感につながっていると感じた。また、失敗を一つの経験とし、そこから考える力や学びにつながり、小学校へ接続を見据えた生活となっていると思った。
- 園の中でも5歳児中心になってしまうところを、3歳児や4歳児も意識をして、主体的な活動を取り入れていた。0歳児からの育ちをつなげていくことが大切だと感じた。
- 園の職員間で共通理解を深め、5歳児と小学校1年生だけではなく育ちのつながりを考えていきたい。

和田岡小学校 佐藤先生の講話から

(参加者「研修アンケート」より抜粋)

- 園での育ちを引き継ぎ、ゼロからのスタートではないことを踏まえ、**子供中心の、子供の意欲から工夫した授業計画**にとっても驚いた。理想的な取組で、幼児教育で培ってきた力を継続的に伸ばしていけると感じた。大規模校は、**学校全体、地域全体での取組が必要**だと思う。
- 園からの育ちをうまく継続していて嬉しかった。今までは就学に向けて「させて」しまうことが多かったが、**子供の姿に合わせてカリキュラムを組み替えて**くださり、園と同じだと思った。「ああしてほしい」ではなく、互いの歩み寄りが大切だと感じた。
- 園でせっかく育てた自主性を、学校の型に、はめ込みすぎることで、無くしてしまっはいけない。**時間割や年間計画の工夫を来年度に向けて今一度見直したい**。
- 学校では、どうしても時間割や年間指導計画にしばられ、「決まっているとおりにやらない」と思っていたが、子供の姿に合わせて、**ゆるやかに学校の学びにつなげる**実例を学べた。
- 入学間もない1年生の実態に合わせ、**15分程度を目安に活動**を組みたい。



グループワークから

(参加者「研修アンケート」より抜粋)

- 学園一体**となって、子供の育ちを支えるように**話し合いや交流を**続けていきたい。
- 学園として、**Teams だけではなく HP の作成**をした取組もあり参考になった。
- 多数の園から小学校に入学するので、**園同士で連携してアプローチ**していく方法(同一日に学校見学や交流の依頼)等の工夫をしたい。
- 大きな交流活動ではなくても、普段の様子を見ることができればよいことがわかり、来年度はもっと**気軽に行き来ができるような計画**を立てたい。
- 学区内に園がなく気軽に交流ができなかったが、**招待して保護者に連れてきてもらう方法**で交流したいと考えた。
- 園同士で情報交換する場、園小で話をする場、学園で共通理解する場**が必要だと思った。
- 園小の**互いの研修に参加**し合うことで、学ぶことができるのではないかとと思う。
- 担任裁量ではなく、**全職員で共通理解**を図りたい。**引継ぎの仕組み**も工夫したい。
- 弾力的な時間割等、**教育課程に位置付けて目に見える形**にすることで、**誰が担任になっても円滑な接続**ができるのではないかと考える。
- 来年度は、**各園・校の年間計画に、交流、保育・授業参観、研修会を位置付ける**ことになった。
- 園で1年間の遊びをまとめたものがあると聞いたので、それを**ジョイント活動時に活用したり、生活科室に掲示**したりしたい。



今年度、各種研修会等で、園・小学校の教育課程に園小接続の取組を位置付けるよう依頼してきました。この接続便りや、各園・校の研修会参加者が持ち帰った他園・校の情報をもとに、園・学校としての取組となるようお願いいたします。

育ちと学びをつなぐ

掛川市教育委員会
園小中接続便り⑤
令和6年3月1日

今年度の開発会議（全7回）のまとめ

令和5年5月から令和6年2月にかけて、「かけがわ型架け橋カリキュラム開発会議」を7回開催しました。今年度は、昨年度作成した「かけがわ型架け橋カリキュラム Ver.1」を、研究指定園・校で実践し、以下の成果がありました。

実践による指導（教職員）の変化

- ・園及び校内で架け橋期について共通理解を図った。
 - ・園と小学校の関わりが増え、ジョイント活動を基に園の遊びと小学校の学びについて話し合ったりした。
- ⇒◎園では、園の遊びが小学校の学びにどのようにつながるのかがわかった。
また、保育の見直しにつながった。
- ◎小学校では、園での子供の育ちや学びを意識して環境を設定したり、授業を考えたりすることにつながった。
- ・生活科が、園の遊びとも他教科ともつながっているという意識がもてた。
 - ・子供に園での経験を聞こうという意識が高まった。
 - ・どのような声掛けをして、どのようなことに気付かせたいかを考え、自覚的な学びになるように意識した。
 - ・子供の思いを大切に単位を構想した。
- ◎互いの保育・授業参観の時に、保育者・教員の意図を考えたり、園と学校のつながりを意識したりするようになった。

実践による子供の変化



- ・交流を通して自分が小学校になった時の姿がイメージできた。
「自分もやりたい」という思いをもち、刺激となり、成長につながった。
- ・交流を通して小学校の雰囲気を感じることができた。
緊張がほぐれ、小学校への期待がもてた。

- ・園での経験を思い出し、活動につなげようとしていた。
自分たちで活動を考えたり工夫したりした。
- ・振り返りでは、自分自身の成長に気付くことができた。
昨年度の5歳児担任にも価値付けてもらい、子供の自信になった。
- ・「年長さんを楽しませたい。」という気持ちが続いた。
目的がはっきりとし、活動の目標が達成できた。



